



昭和46年

平城宮発掘調査出土木簡概報 (八)

奈良国立文化財研究所

# 訂正表

7	7	6	4 下	3 下	3 上	1 上	3	頁 行	
図 中	図 中		6	8	暴				
 今年度出土地票		(西北の斜線部内数字) 通支 □ □ 服北 之ニ		津守大嶋 若麻續大		官域外の 三百廿四口		誤	
 今年度出土地票		63	通支 □ □ 服北 之ニ		津守大嶋 若麻續大 本文下に (建築部材)		官域外の 三百廿四口		正

この概報はさきに公刊した「平城宮発掘調査木簡概報七」(昭和45年2月)以後、平城宮跡および平城宮東院の南に接する宮城外の地域の調査で出土した木簡について、その主要なものを収録した。総点数は100点である。以下、木簡出土の地点と状況および形態分類をのべ本文を掲げる。

### 一、木簡出土の地点と状況

#### 第63次調査 (GADCC)

第63次調査は宮域西北部で第52次調査の北に接する部分で行なった。検出した遺構は建物14棟、柵1条、築地2条、溝8条などであった。木簡は東西溝のSD6499とSD6483とから合計15点出土した。

この地域は過去六回(第25・47・50・51・52次調査)にわたって行なった発掘と一連のものである。これらの調査地区は宮西端部中央北よりにわたり、南北は西面中門(佐伯門)から西面北門に至る約280m、東西約120mの広さをもつ。この地域で検出した建物群には

数回にわたる造営が認められるが、東・西を柵で、北を

築地で区画された一つの官衙と考えることができる(南は西面中門の北端か)。この規模は東西84m、南北252

mである。この官衙の性格を考える参考となるもの

に、この地域から出土した墨書土器の「内厩」(2点)、

「主馬」(2点)がある。内厩は天平神護元年以降、主

馬は天応元年以降、いずれも大同元年まで存続した内厩・

主馬両寮である。したがって、この地域は左右馬寮へ内

厩寮の官衙と考えるのが妥当であろう。なお、平安宮

「大内裏図」では左右馬寮は東西116m(35丈)、南北277

m(84丈)の規模で宮の西辺に配置されている。

#### 第68次調査 (GALIG)

この調査はボーリング場建設に伴う緊急調査として、平城宮東院の南に接する地域で実施した。すでに第44次調査(「年報」一九六八)で確認した坊間大路西側溝の南延長部分を中心に、幅10m、長さ50mの南北トレンチを設定し、建物8棟、柵4条、木樋暗渠2条などを検出した。木簡は大路西側溝SD5870より79点、そのほか柱

穴から6点出土した。ほかの遺物としては鬼瓦、三彩施釉瓦片、堅櫛、胡桃形の木印、多量の土器類を検出した。なお墨書土器には、「東隅」「南隅」「東南」「東北隅」など位置を示すものなどがあり注目される。

## 二、木簡の形態分類

6011型式 短冊形

6015型式 短冊形で、側面に孔を穿ったもの。

6019型式 短冊形と推定できるもの。

6021型式 小型矩形のもの

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端左右に切りこみをい

れたもの。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切りこみを

いれたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切りこみを

いれ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切りこみが

あるが、他端は折損あるいは腐蝕して

不明のもの。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端が尖って他端の形態

が不明のもの。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 ある種の用途をもっと推定される木製

品に墨書のあるもので、その用途が判

然としないもの。

6081型式 折損、腐蝕その他によって原形の判明

しないもの。

6091型式 削屑

## 三、凡例

以下、出土遺構ごとに本文を掲げる。各遺構から出土した木簡の配列は用途別に記載し、最上段に出土地点（アルファベット・数字）つぎの段に形式分類記号（本概報では千位の6を省き、3ケタで表わす）をそれぞれ記した。

6ADC-SD6499

GD 39 011 「嶋掃進兵士四人依人役數欠」

「状注以移 天平十一年正月二日」

GD 39 011 「掃進兵士四人依蓮池之格採數欠」

「注以移」坂坂 天平十年六月九日  
(状) (果筆)

GD 39 019 「進兵士三人依東園」

「以移 天平十年閏七月十二日」

GD 39 019 「進兵士四人」(依)人

「以移」

GD 39 019 「嶋掃進」

「以移」

6ADC-SD6483

GD 51 081 「十六一又七七廿九八十一九」

「三百十四」

6ALG-SB6544

AC 57 081 「遠」薑二根

「」

6ALG-SB6545

BL 56 039 「卅東左兵士付」

「」

6ALG-SB6546

AF 57 「南綿侶釘枚綿侶釘廿五」

「綿釘十六守綿侶釘十九」  
北綿侶廿

AF 57 「東一」(部材番付)

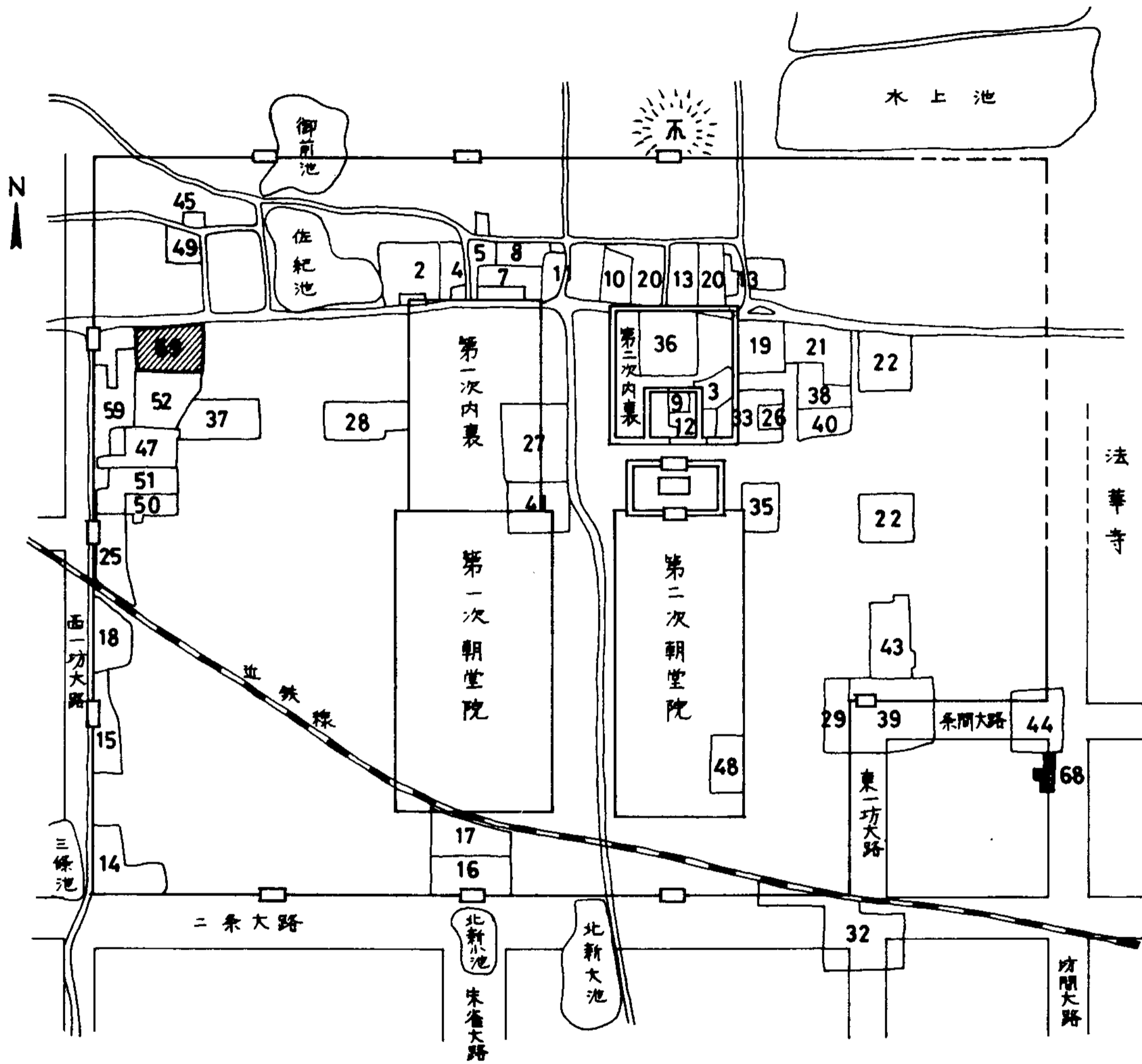








# 木簡出土地点略図



今年度出土地点  
 (数字は発掘次数を示す)